



九州森林・林業セミナー会場一杯の参加者＝熊本市森都心プラザ

九州森林・林業セミナー会場一杯の参加者＝熊本市森都心プラザ

九州森林・林業セミナー会場一杯の参加者＝熊本市森都心プラザ

九州森林・林業セミナー会場一杯の参加者＝熊本市森都心プラザ

担当：指導普及課

第七回「九州森林・林業セミナー」開催
国産材需要拡大への挑戦500人が参加

「森林・林業再生プラン」が農林水産省により策定・公表され、2020年までに木材の自給率を50%以上にするとの目標を設定していますが、その実現に向

け国産材の需要の拡大が重要な課題となっています。このため、川上・川中側では、森林施業集約化の積極的な推進、路網整備と高性能林業機械を活用した低

コストで効率的な木材生産システムの確立、原木流通の低コスト化・効率化の推進が重要となっています。また、川下側においては、建築物などのマテリアル利用や化石燃料を代替するエネルギー利用が様々な分野での木材利用の拡大に向けた取組が課題となっています。



講演する山田壽夫氏

講演する山田壽夫氏



講演する安藤直人名誉教授

九州森林・林業セミナー会場一杯の参加者＝熊本市森都心プラザ

九州森林・林業セミナー会場一杯の参加者＝熊本市森都心プラザ



大分西部森林管理署

院内森林事務所

首席森林官 山下 真治

鹿嵐山は、大分県宇佐市院内町の西北部に位置し、中津市本耶馬溪町に接した山です。

奇岩・奇峰で知られる景勝「耶馬溪」の一角にあり、雄岳と雌岳（七三〇㇫）からなる双耳峰（そうじほう）です。

鹿嵐山一帯は、「耶馬日田英



知る人ぞ知る絶景の名山 『鹿嵐山（かならせ）』七五八・一㇫

彦山国定公園」に指定されており、また、雌岳の山頂付近に群生するツクシヤクナゲは、県指定天然記念物にも選ばれており、毎年4月29日の昭和の日には、宇佐市観光協会主催の山開きシヤクナゲ探勝登山会が開催され、九州各県や山口県などから多くの登山客が訪れます。

当日は、地元高並谷地区の婦人会より登山者に無料

で、田舎料理やコーヒ、麦茶などが振る舞われたいへん賑わっています。鹿嵐山東側の宇佐市側が国有林となっており、山頂付近は「森林」と人の共生林の自然維持タイプに区分して管理経営しています。

【見所・時期】
山頂からは宇佐平野、八面山、周防灘などが一望に見えます。なかでも、北側尾根の「地藏峠の景」は、自然が造り出した見ごたえ十分の絶景です。登山シーズンとして

鹿嵐山全景（右：雄岳 左奥：雌岳）

は、景勝地として有名な耶馬溪と同様に紅葉の時期及びシヤクナゲの咲くゴールデンウィークがおすすすめです。

【登山案内】
国道三八七号線の宇佐市院内町円座交差点から県道六六四号線を西へ約8き進むと第1登山口に到着します。登山口は、ほかに中央登山口、第2登山口があり、駐車場は第1及び第2登山口にあり。

一般的な登山ルートは、第1登山口↓ヒノキ人工林↓天然林のツクシヤクナゲの群生地↓雌岳（七三〇㇫）↓尾根を縦走↓雄岳（七五八・一㇫）↓「地藏峠の景」（浸食した凝灰岩が創り出した絶景が展開される）。「万里の長城」（石稜のやせ尾根で、左右が千尋の谷であり足下に注意が必要）↓地藏峠↓第2登山口↓県道を下り第1登山口へ至り約3時間のコースです。

【近くの見所】
○温泉⇨余温泉、妙見温泉、上恵良温泉
○滝⇨「西椎谷の滝」（落差86㇫）、「余の滝」（48㇫）、「福貴野の滝（65㇫）」、「東

椎谷の滝」（85㇫）、
○石橋⇨院内町内には、江戸時代の終わりから昭和のはじめにわたって架けられた75基の石橋があります。
○サンショウウオ⇨余川のオオサンショウウオは国の特別記念物に指定されており、九州唯一で生息地の南限としても有名です。道の駅「院内」で見ることができま



山頂付近で自生するツクシヤクナゲ

○宇佐神宮⇨全国に4万社余りある八幡様の総本宮です。八幡大神（心神天皇）・比売大神・神功皇后をご祭神にお祀りし、七二五年に創建されました。皇室も伊勢の神宮につぐ第二の宗廟として御崇敬になり、一般の人々にも鎮守の神として古来より広く親しまれています。
近くには宇佐神宮をはじめ、パワースポットや癒やしのスポットが数多くあり、鹿嵐山登山とセットで計画すると、心身のリフレッシュにはおすすすめです。



防護柵を視察する関係者＝大分西部

シカ被害対策で意見交換

【大分西部森林管理署】大分県では、平成23年度から野生鳥獣による農林業被害対策として、県内一斉捕獲が実施されています。シカ被害は、生息範囲だけではなく被害対象も多様になっており、行政レベルでの取組が強化されています。このような状況において、民・国で情報や技術の共有を図ることが重要とのことから、シカ被害対策の意見交換会を開きました。参加者は当署管内の造林地の被害状況とくくりワナ及び防護柵を視察。県からは国有林のフィールド提供やデータ収集の要望も出されるなど有意義な会議となり、今後も情報を交換しながら、連携したシカ被害対策に取り組んで行くこととしました。

木材需要拡大に向けた意見交換会を開催

木材自給率50%以上の具現化を目指す

本年は例年になく木材価格が下落し、当局としても業界などの要請を受けて出材調整などの対応を行ってきましたが、森林・林業再生プランで掲げる木材自給率50%以上を具現化するためには今後素材生産量を増加させていくことが肝要であり、それにも増して国産材の需要拡大が最も重要となっています。このような中、9月3日に開催された第7回九州森林・林業セミナーにあわせ、素材生産業、流通を担う木材市場、木材加工を担っている方々と木材需要拡大に向けて必要な取組などについて意見交換会を開催しました。



意見交換を行う7人の木材関係者のみなさん

会議では、平之山俊作九州森林管理局長の挨拶につづいて、

柳田真一郎森林整備部長より、九州の木材価格などについての説明を行ったのち、出席された木材関係者7人の方からそれぞれの立場から意見発表をして頂き、最後は参加者による意見交換を行いました。当日は、九州各県の木材関係担当者もオブザーバーとして参加して頂き、木材の需要拡大に向けて有意義な意見交換会となりました。

(担当＝販売課)

森・林業再生プラン実践取組

【熊本森林管理署】8月21日
低コスト路網開設に伴うオペレーター



現地にて重機による作設のポイントを検討＝熊本

ターの技術向上と路網整備技術力アップを図る目的で九州国有林業生産協会主催の低コスト路網開設技術者養成研修会が、国有林の保育間伐活用型個所で行われ関係者32人が参加しました。はじめに佐藤眞佐雄理事及び工藤篤署長の挨拶の後、当署職員は既設路網の現地検証を行い、事業体のオペレーターは、秋吉林業・堀内さんの指導により、交代でバックホーを運転、路網作設線形の考え方、作設のポイントを学びました。最後に検証結果の発表と研修全体の意見交換を行い、地形に応じた作設技術の向上と、低コストで壊れにくい路網の線形を実践する

人のうごき

◆退職◆

◆定員内職員◆
8月31日付森林管理局長発令
東智美（鹿児島署）

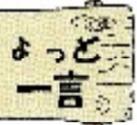
九州北部豪雨で見た流木の光景

7月の九州北部豪雨は、日田地方をはじめ林業地に、林道の崩壊をはじめ大きな爪痕を残してしまいました。

地的には激しい被害個所が散見されており、自然災害はいつ何時襲ってくるかわからないわけで、林業という長い期間の間では、大雨・台風・雪害そして鳥獣類の被害など、あらゆる災難を乗り越えて育林を行っていかねばならないことを改めて考えさせられました。

今回の被害で少し気になることは、道路や橋脚におびただしく重なり合った流木の光景を見るたびに、一般の市民から流木が被害を増大させたとのイメージをもってしまった現場が少なからずあったことです。

本来、緑のダムとして治山治水の役割を果たしているはずの山林が、災害の元凶と誤解されていることは忌々しきことです。異常気象が原因なのか、または林地残材に問題があるのか、あるいは植生や作業方法に問題があるのか、いずれにしても山林



災害と言えば、昭和28年の大水害や平成3年の台風が思い出されますが、今回の被害面積は、それほどの広さはないにせよ局

中では、大雨・台風・雪害として鳥獣類の被害など、あらゆる災難を乗り越えて育林を行っていかねばならないことを改めて考えさせられました。

今回の被害で少し気になることは、道路や橋脚におびただしく重なり合った流木の光景を見るたびに、一般の市民から流木が被害を増大させたとのイメージをもってしまった現場が少なからずあったことです。

改めて、山林が災害の拡大の原因でないことはもちろん、災害防止に役立っていることを、林業関係者以外の一般の方に、わかりやすく説明すべきではないかと感じました。

株式会社日田十条

代表取締役 瀬戸 基彦

林業専用道技術者研修スタート

第一グループは九州各県から30人が参加

今年も8月27日から、熊本県八代市において、熊本南部森林管理署のフィールドを活用し、林業専用道技術者研修がスタートしました。当研修は、4グループに分かれ2泊3日の行程で10月まで実施されます。

第一グループの研修生は、九州各県の森林組合職員11人、市町村職員1人、県職員9人、国

道が組み合わされた路網の整備を加速化させるため、技術者の育成と確保が必要である」旨の挨拶がありました。

研修初日は、新たな路網整備についての講義と地形などの分かる五千分の一の図面と航空写真をもとに机上で林業専用道のルートを検討する演習が実施されました。

2日目は、机上演習したルートについて、現地踏査などを実施するとともに、全国で最初に完成した庵ノ山一四四七林道

(林業専用林道)で、設計施工のポイントについて意見交換が実施されました。

3日目は、前日の現地踏査を踏まえて、ルートの見直しを行い、各班で発表・意見交換と最後に設計のポイントについてまとめの講義が行われ、ルート選定及び設計上の留意事項について共有し研修を終了しました。

研修生には、これから九州の森林・林業を支える道づくりの牽引役となって活躍して頂くことが期待されます。



九州各県から参加した研修生のみなさん

(担当＝指導普及課)



武内 義雄さん



『山ヤ』の憂い

「山は心と体の健康に欠くことのできないフィールド」(注)「山の日」制定協議会)といわれる所以である。その美しく豊かであるべき自然は、いまや次世代へ引き継ぐのに躊躇(ちゅうちょ)されるほど危機に瀕(ひん)んしている。たかが3から4

捕獲したヤマビルの吸血獣D.N.Aを解析したところ、シカ50匹、猪20〜30匹との鑑定結果を得た。これらの因果関係を発見するにつれ、「山ブーム」や林業、観光への影響も懸念されてならぬ。かつてヒトは、幾千万年にわたり「大地に抱かれ」動物たちと「共存・共栄」してきた。

私のような1市民の凡人には「対策」の妙案など持ち合わせはない。しかし、「山ヤ」は「山ヤ」なりの危機感を日々強めており、山歩きで知れた情報の発信は可能だ。

いまモニターとして、改めてその思いひとしおである。

(宮崎県宮崎市在住)

私は山が好きだ。登山は勿論、岩登りや沢登りもやる。そんな自称「山ヤ」にとつて7月の「新燃岳」規制緩和は待ち望んでいた朗報だった。

その初日、私と妻は早速韓国岳へ向かった。しかし、ガスッ

た高原、延々と続く駐車の死に氣勢をそがれ、赤松林のえびの岳を一周し下山した。そこへ親子鹿が近づいてきた。「餌」をねたり、仕草もかわい。私は複雑な心境だった。

鹿や猪など大型獣の被害が問題化して久しい。「広報九州」でも「シカ対策」

などに苦慮の様子がうかがえる。私は以前「どげんかせんといかん」と生態系崩壊の危機を警鐘し、寄稿した。しかし、その後も被害は益々拡大且つ深刻化し付随するように「ヤマビル被害」の「媒体」として厄介な存在となっている。

私も今年2回吸血されたが、地元紙でも「裾から侵入するビル

を張った直後からヤマビルが侵入。あまりの多さに中止し、この体で下山したとブログにあげた。沢登りで、波のように蠢(うごめ)く無数のヤマビルに震撼した経験があるので、彼らの慌てぶりが容易に想像でき、思わず苦笑した。ある研究会で、

「ヒトの存在がある」ことも「自戒を込めて」再認識せざるを得ない。

私のような1市民の凡人には「対策」の妙案など持ち合わせはない。しかし、「山ヤ」は「山ヤ」なりの危機感を日々強めており、山歩きで知れた情報の発信は可能だ。

いまモニターとして、改めてその思いひとしおである。

(宮崎県宮崎市在住)

第16回 綾プロジェクト連携会議開催

8月7日に宮崎県綾町役場において、「綾の照葉樹林プロジェクト（略称「綾プロ」）」の第16回連携会議が、九州森林管理局、宮崎県、綾町、日本自然保護協会、綾の照葉樹林プロジェクト推進協議会（略称「てるはの森の会」）の関係機関5者が出席し開催されました。

会議は、各関係機関5者から

平成23年度事業報告及び平成24年度事業計画（案）が報告・提起され、満場一致で確認・承認されました。

また、綾町から「綾ユネスコエコパーク登録」に伴い、綾パークとの連携を含めた「綾ユネスコエコパーク運営体制」についての提起がなされ、「綾プロ・綾ユネスコエコパーク地域連携協議会・町づく



会議の冒頭あいさつを述べる矢野計画部長＝綾町役場

り協議会」の三本柱の体制が確認されました。最後に、前田穰綾町長からエコパーク登録への関係機関の支援に対するお礼と9月1日に実施する「綾ユネスコエコパーク登録記念式典」への協力依頼がなされ、連携会議を閉会しました。
（担当「計画課」）

2地域の森林整備推進協定締結

【宮崎北部森林管理署】9月4日、「椎葉村松尾・下福良地域森林整備推進協定」の締結を行いました。本協定は、宮崎県東臼杵農林振興局、（独）森林総合研究所森林農地整備センター、宮崎水源林整備事務所、住友林業（株）、山林環境本部・住友林業フォレストサービス（株）日向山林事業所及び当署が協定者となり、森林整備実施計画を定め、隣接する森林に森林共同施業団地を設定し、民有林と国有林が連携して効率的な路網整備や間伐などの森林整備を推進していくことを目的としたものです。今後は、運営会議を開催し、具体的な取り組みを進めていくこととしています。



協定書へ調印する関係者＝宮崎北部

芦北高等学校生2年生6人が受講 林業実践体験研修

熊本県が地域林業実践体験を委託している水俣芦北森林組合の依頼で、熊本県立芦北高等学校林業科2年生6人を対象に研修を行いました。

はじめに、迫口親経理課長から、入庁してからの経験談を交えながら、国有林の移り変わり、職場環境、業務内容について話があり、広報主任官からは国有林の役割や森林管理局の組織と九州森林管理局の取組について説明がありました。



シカと森林のゲーム行う高校生ら＝監物台樹木園

午後からは、永山博美緑の普
研修生からは、「樹木の特徴が良く理解できた。初めて見る木や多くの樹種が見られて良かった。」などの感想があり、体験研修を終了しました。
（担当「総務課」）

お悔やみ申し上げます
武藤幸弘 様
熊本森林管理署菊池森林事務所勤務、基幹作業職員
武藤幸弘様は8月4日で逝去されました。
（享年53歳）

熊本市立池田小学校育成クラブへお届け講座 「おにぎりくん」作りに挑戦



おにぎりくん作りに挑戦する児童ら＝池田小学校

8月9日、熊本市立池田小学校の小学校育成クラブにおいて、お届け講座を行いました。
今回の講座には、小学1年生から3年生までの児童50人が参加。スギ材を使ったストラップ「おにぎりくん」作りに挑戦。
はじめに、紙芝居「森林からのおくりもの」を用いながら、身の回りにある樹木や木材の関わりについてクイズを取り入れながら楽しく学習しました。
その後、日頃お母さんの作るおにぎりをイメージしながらと指導した後、いよいよ児童らの待ち望んだストラップ作りに取りかかりました。児童らは、1辺3センチの三角形のスギ木片をサンドペーパーで削り、おにぎりの形にしていく作業に、友達同士競争しながら、作業を進め、削ったスギ木片に着色し、世界に一つだけの「おにぎりくんストラップ」が完成しました。

最後に出来上がった作品を手がった児童らに全員で記念撮影を行い、それぞれの児童らは自分で作ったオリジナルの作品に満足しながら講座を終了しました。
(担当)指導普及課

人吉・球磨自然観察会を開催

【熊本南部森林管理署】人吉・球磨自然観察会を環境省希少野生動植物種保存推進員の乙益正隆氏を講師に迎え、「アポロ峠周辺で見られる植物」をテーマに開きました。当日は、初秋を感じさせる心地よい風の中、約50人の参加者が、林道沿いを散策しながら国有林に自生している希少種の「クマガワブドウ」など珍しい植物などを観察しました。午後からは、石神署長による林分の階層構造やシカの採食圧による生物多様性への影響などについて説明があり、植物を守ることの大切さを実感する一日となりました。



乙益先生から植物の説明を聞く参加者＝熊本南部

刃物取り扱いの実技指導

【鹿児島森林管理署】刃物による労働災害の未然防止を図ることを目的に実際に刃物の研ぎ方や取扱方法を学習する安全勉強



講師の基本的な研ぎ方を体得する職員＝鹿児島

会を行いました。経験豊富な基幹作業職員の指導のもと、使用している鉋の特徴や研ぎ方の説明を受けた後、砥石を使い研ぎ方を行いました。午後から鋸の特徴や目立ての方法を学び、平ヤスリを使用した目立てを経験しました。また、若手職員には立木を利用した測量杭の作り方の実技指導があり、刃物の安全な使用方法に悪戦苦闘しながら取り組んでいました。今回の安全勉強会は、普段使用している刃物の危険性について基本的な事

項を習得させるための有意義な一日となりました。

民・国協同でパトロール

【大分西部森林管理署】くじゅう地区高山植物保護対策協議会では、くじゅう連山を対象に、入林者の多い夏の時期に高山植物の盗採防止と登山マナーの向上を目的にパトロールを実施。協議会は、大分署、熊本署、地元自治体、環境省、警察署、九重の自然を守る会、九重・飯田高原観光協会など20の団体で組織しています。パトロールは、九重山を中心に主要5ルート



パトロール行う関係機関の皆さん＝大分西部

の登山道において4回行い会員延べ約70人が参加し登山者へ「しおり」を配布して高山植物の保護啓発と登山の安全を呼びかけました

「花器台」作りにも挑戦 〜焼きスギ加工の防腐効果を学ぶ〜

8月19日、監物台樹木園みどりの交流館において、第3回実践・公開講座「クラフト」を開き、幼児、小学生を含む17人が参加。講師に九州インストラクター会の村尾昭志さんを招き、焼きスギ加工の「花器台」作りにも挑戦しました。はじめに、村尾さんから花器台の作り方や焼きスギ加工による防腐効果など木材の特性について説明を受けた後、作品作りに取りかかりました。



出来上がった作品を前に記念撮影する受講生

参加者からは「焼きスギの木目がきれい」「木の性質を知ることができた」などの声が聞かれ、木材を身近に感じ勉強になったようです。
最後に出来上がった作品を手に全員で記念撮影を行い、参加者からは自分で作った作品に満足しながら、大事に抱え笑顔で帰って行かれました。
(担当II指導普及課)



ツガは九州地方では普通にあり、常緑高木ですが、標高がやや高いところに分布します。モミは標高400m付近、ツガは標高800m付近で出現し棲み分けていますが、ツガとモミが混生していることも珍しくありません。

ツガとモミは葉や幹が似ていることから、見分ける方法がいろいろあります。葉先が二つに分かれているのを爪に例え「モミに爪あり、ツガに爪なし」といって、目の高さ付近で葉の観察によって見分けることができ

ゴイシツバメ 自然観察会

【熊本南部森林管理署】国内希少野生動物植物であるゴイシツバメシジミの学習会と自然観察会を水上村市房キャンプ場で行い、地元小学生約30人が参加しました。講師には九州大学の三枝名誉教授を迎え、ゴイシツバメシジミが羽化するまでの生活環境や保護について説明があり、ゴイシツバメシジミの幼虫が食べるシンシランの開花も見られ、参加者は熱心に受講していました。またシンシランが着生して



ゴイシツバメを観察する参加者＝熊本南部

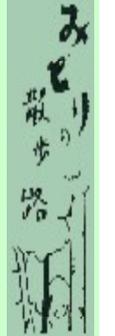
いる樹木周辺を飛んでいるゴイシツバメシジミも観察され貴重な体験ができました。

60 ツガ (マツ科)

松かさ落ちる頃、森に入るとツガの小さいマツカサが目につきますが、モミは種子と一緒に鱗片(マツカサを作っている片)が剥けて飛散するのでマツカサを見ることはありません。



ツガ材は堅く、時を経ると黒みが増し重厚感が出てくることから、ツガ柱として珍重されました。建材、船舶材、楽器や茶室にも使われています。



8月29日南海トラフ巨大地震が発生した時の被害想定が発表された▼死者は最大32万人以上。マグニチュード9.1の地震で最大34mの津波が太平洋岸を襲い、震度7の強い揺れで約238万棟が全壊・焼失すると推定。今までの想定をはるかに上回る最悪のシナリオと報道された▼9月1日は防災の日、関東大震災の日であり、台風が多く襲来する時期と言われる二百十日にちなんで制定された。この日全国各地で地震や津波を想定した訓練が行われ約38万人が参加した▼津波警報が出た場合、沿岸付近にいる人に携帯電話で一斉にメール配信するサーブिसも始まった▼万一の災害に備え、最低3日間の非常食が必要という。日頃から非常時持出品の準備をしておきたい▼9月に入り朝夕はしのぎやすくなった。先日南阿蘇へ行った、ヤマハギ、オミナエシ、マツムシソウの花が見られ秋の気配が感じられた▼9月期は労働衛生週間の準備月間。夏バテ症状が現れる頃でもある。規則正しい生活と適度な運動でストレス解消と。健康管理について考えてみたい。(み)